

国史跡

# 寺町廃寺跡

国史跡「寺町廃寺跡」は、広島県三次市向江田町に所在する寺院跡と、和知町に所在する瓦窯跡、この二つの遺跡があわせて指定されています。前者を寺町廃寺跡、後者を大当瓦窯跡と呼びます。寺町廃寺跡は、地元では遺跡の一角を「塔の段」・「堂の段」などと呼ばれているほか、軒丸瓦の下端に三角状の突起をもつ、いわゆる「水切り瓦」の出土地としても知られています。

## 国史跡 寺町廃寺跡

今から約1,400年前の6～7世紀の日本列島には、朝鮮半島からやってきた「渡来人」によって様々な技術や文化が伝えられました。また、「仏教」が伝えられたのもこのころです。

仏教を信じる人がふえる時代の中で、日本各地にはたくさんの「お寺（寺院）」が建てられました。多くのお寺は、長い年月の中でその姿を失い、いまは「遺跡（寺院跡）」として地中に埋まっています。

いまのところ、三次市では3つの寺院跡がみつかっていて、その中の一つに「寺町廃寺跡」があります。寺町廃寺跡は三次市向江田町にあり、これまでの発掘調査や研究の成果から、古代の仏教文化を物語る大切な寺院跡として、大当瓦窯跡とともに「国史跡」に指定されています。

### 指定状況

種別	国史跡
名称	寺町廃寺跡(てらまちはいじあと)
所在地	寺町廃寺跡:三次市向江田町 大当瓦窯跡:三次市和知町
指定年月日	昭和59年(1984)5月25日(文部省告示第71号)
指定地面積	寺町廃寺跡:9,679㎡ 大当瓦窯跡:4,196㎡ 合計:13,875㎡



↑寺町廃寺跡のシンボル

寺町廃寺跡への登り口をあがると登場します。



↑上空からみた寺町廃寺跡(赤丸の部分が寺町廃寺跡)



↑瓦を焼いていた窯跡が見つかった大当瓦窯跡

# 『日本靈異記』の三谷寺

古代（飛鳥～奈良時代）の人々の生活や様子がわかる歴史資料として、『日本靈異記』（正式名：『日本国現報善惡靈異記』）という日本最古の仏教説話集があります。

『日本靈異記』は、今から約1,200年前の平安時代につくられました。じつはこの本文中には、古代の三次の地で活躍したお坊さん（僧侶）が登場します。名前は「弘濟」といい、次のようなことが書かれています。

「亀の命を贖ひ生を放ちて現報を得亀に助けらるる縁」第七

禪師弘濟は、百濟国の人なり。百濟の乱の時に当りて、備後国三谷郡の大領の先祖、百濟を救はむが為に軍旅に遣さるる時に、誓願を發して言さく「もし平に還來らば、諸の神祇の為に伽藍を造立て多諸くの寺を起らむ」とまうす。

遂に災難を免れ、すなはち禪師を請へて相共に還來り三谷寺を造る。其の禪師の伽藍と諸の寺とを造立てたる所以なり。道俗觀て、共に為に欽敬ふ。禪師尊き像を造らむが為に、京に上り財を売る。既に金と丹との等き物を買得て、難破の津に還到る。時に海の辺の人大なる亀四口を売る。禪師人に劬へて買ひて放たしむ。すなはち人の舟を借り、童子二人を將て共に乗りて海を渡る。日晚れ夜深けて舟人欲を起し、備前の骨嶋の辺に行到りて、童子等を取りて海の中に擲入る。然うして後に禪師に告げて云はく「速に海に入るべし」といふ。師教化ふといへども賊なほ許さず。茲に願を發して海の中に入る。水腰に及ぶ時に石を以ちて脚に當つ。其の暁に見れば、亀負へり。其の備中の浦にして、海の辺に其の亀、三領きて去る。是れ放てる亀の恩を報ゆるかと疑ふ。

時に賊等六人、其の寺に金と丹とを売る。檀越まづ量るに価を過ゆ。禪師後に出でて見れば、賊等忙然しくして退進を知らず。禪師憐愍びて刑罰を加へず。仏を造り塔を蔽り、供養し已りぬ。後に海の辺に住みて往き來る人を化ふ。春秋八十有余のとしに卒ぬ。畜生すらなほ恩を忘れず、返りて恩を報ゆ。何にいはいむや、人にして恩を忘れむや。（出雲路修 1996 『日本靈異記』 新日本古典文学大系 30 岩波書店 を一部改変して引用）

## 説話のストーリー



①三谷郡大領の先祖は寺院建立を誓願する  
※三谷郡大領・・・三谷郡の郡司。



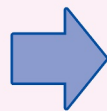
②三谷郡大領の先祖は白村江の戦いに参加



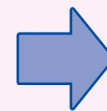
③百濟の禪師・弘濟は三谷寺を建立する



④弘濟は難破の海辺で亀を助ける



⑤盗賊に襲われ、弘濟は海に投げ出される



⑥海辺で助けた亀に助けられる弘濟

この説話では、660年代頃の東アジア世界の様子がえがかれています。当時の日本は「倭国」とよばれ、朝鮮半島には「高句麗」・「新羅」・「百濟」という3つの国がありました。660年、新羅が隣国の唐（現在の中国）と一緒に百濟に攻め込みます。倭国は百濟を助けるために軍隊を送りますが、「白村江の戦い」（663年）の敗戦で百濟はなくなります。

この戦いには、古代の三次の地（備後国三谷郡）で権力をもった人も参加しました。戦いの後、三次の地に帰ってくることでできた三谷郡大領の先祖は、百濟のお坊さんであった弘濟と一緒に、「三谷寺」というお寺を建てたようです。その後、説話では弘濟が仏像の材料を買いに都に出かけ、海辺で助けた亀に助けられたことも描かれています。寺町廢寺跡は、「三谷寺」と考えられる寺院跡として注目されています。

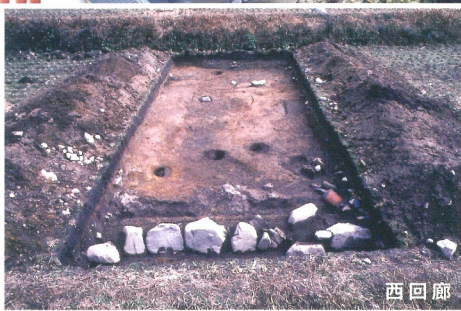
## 寺町廃寺跡の発掘調査

**金堂**… 仏像が安置される建物です。「基壇」という建物の土台部分が見つかって、大きさは東西15.74m×南北13.4mです。基壇の北側と南側では階段跡が見つかっています。基壇づくりには、「版築」という技術が使われています。古代の中国で発明された技術で、土や砂を「突棒」という細長い棒を使って突き固める作業をくり返して、建物の土台がつけられています。(寺町廃寺跡では、黄色と黒色の土が使われています。)



寺町廃寺伽藍模型  
(広島県立歴史博物館蔵写真提供)

**回廊**… 廊下であり、金堂・塔・講堂のまわりにみつかっています。



**講堂**… お坊さんがお経をとる建物です。基壇の大きさは、東西25.4m×南北14.7mです。基壇の南側では、3つの階段跡が見つかっていて、当時の講堂の構造を考える上で重要です。

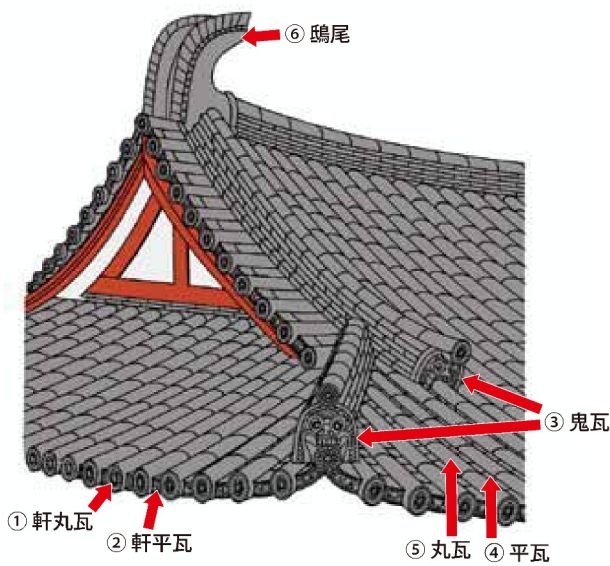


**塔**… お寺のシンボルとなる建物です。基壇の大きさは、東西11.14m×南北11.14mです。塔の建物の中心には、他の柱よりも大きくて太い「心柱」を立てて建物を支えます。また心柱を支えるため、その下には「心礎」という大きな石が置かれます。寺町廃寺跡では、当時とほぼ同じ位置に心礎が残っています。



## ●寺町廃寺跡で出土した遺物

いまのお寺の屋根をみると、たくさんの「瓦」が使われています。  
 古代のお寺の屋根にも瓦は使われていて、寺町廃寺跡からもたくさんの瓦がみつかっています。



【イメージ：古代寺院の屋根】

- |   |  |   |
|---|--|---|
| <p>① 軒丸瓦<br/> <small>のきまるかわら</small><br/>                 蓮の花の文様が描かれた瓦。軒先に使用。</p> | <p>② 軒平瓦<br/> <small>のきひらかわら</small><br/>                 唐草の文様などが描かれた瓦。軒先に使用。</p> | <p>③ 鬼瓦<br/> <small>おに かわら</small><br/>                 鬼や獣の文様が描かれた道具瓦。魔除に効果あり。</p> |
| <p>④ 平瓦<br/> <small>ひら かわら</small><br/>                 四角く平たい瓦。屋根に一番使用される。</p>   | <p>⑤ 丸瓦<br/> <small>まる かわら</small><br/>                 正面からみると丸い瓦。平瓦の隣に使用。</p>    | <p>⑥ 鴟尾<br/> <small>し び</small><br/>                 大棟の両端に取りつけられる鳥の尾の形をした瓦。</p>    |

## 寺町廃寺跡の軒丸瓦（別名：「水切り瓦」）

寺町廃寺跡の軒丸瓦には、「蓮の花」の文様が描かれています。瓦を正面からみたときに下端が三角形状にとがるのが特徴です。雨がふったときに、三角形の頂点で水が切れるようにもみえることから、「水切り瓦」ともよばれています。



三角形状にとがる。：赤丸の部分  
 頂点で水が切れるようにもみえる。

みず き かわら  
**「水切り瓦」**



↑寺町廃寺跡の「水切り瓦」

## 寺町廃寺跡の土器

寺町廃寺跡からは、須恵器や土師器といった、たくさんの土器がみつかっています。その中には、「唐三彩」というめずらしい土器も出土しています。



↑須恵器：灰色で硬い土器



↑土師器：橙色で軟らかい土器

## 【唐三彩】

唐三彩とは、唐という国（現在の中国）でつくられていた土器で、3つの色を使って色づけされているのが特徴です。寺町廃寺跡からは、「長頸壺」という、長い頸をもつ壺の破片がみつかっています。

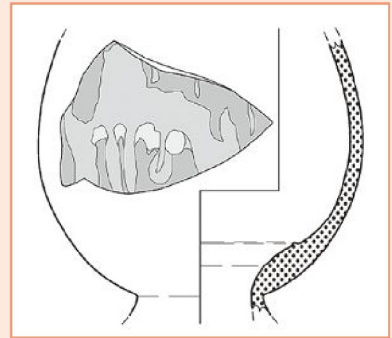
いまのところ日本全国でこのような破片がみついている寺院跡は、寺町廃寺跡だけです。



↑唐三彩片の発見状況



↑寺町廃寺跡の唐三彩片



↑唐三彩片の復元図

## コラム：寺町廃寺跡の瓦がつくられた場所は？－大当瓦窯跡－

寺町廃寺跡の瓦は、どこでつくられていたのでしょうか。

寺町廃寺跡から北西約1.5 km離れた三次市和知町には、「大当瓦窯跡」という瓦を焼いていた窯跡があります。たくさんの瓦がみつかっていて、その中には寺町廃寺跡と同じ道具でつくられた軒丸瓦や鬼瓦がみつかっています。

このことから、寺町廃寺跡の瓦は大当瓦窯跡でつくられていたと考えられます。



↑大当瓦窯跡でみつかった窯跡



←大当瓦窯跡の「水切り瓦」

大当瓦窯跡の → 鬼瓦



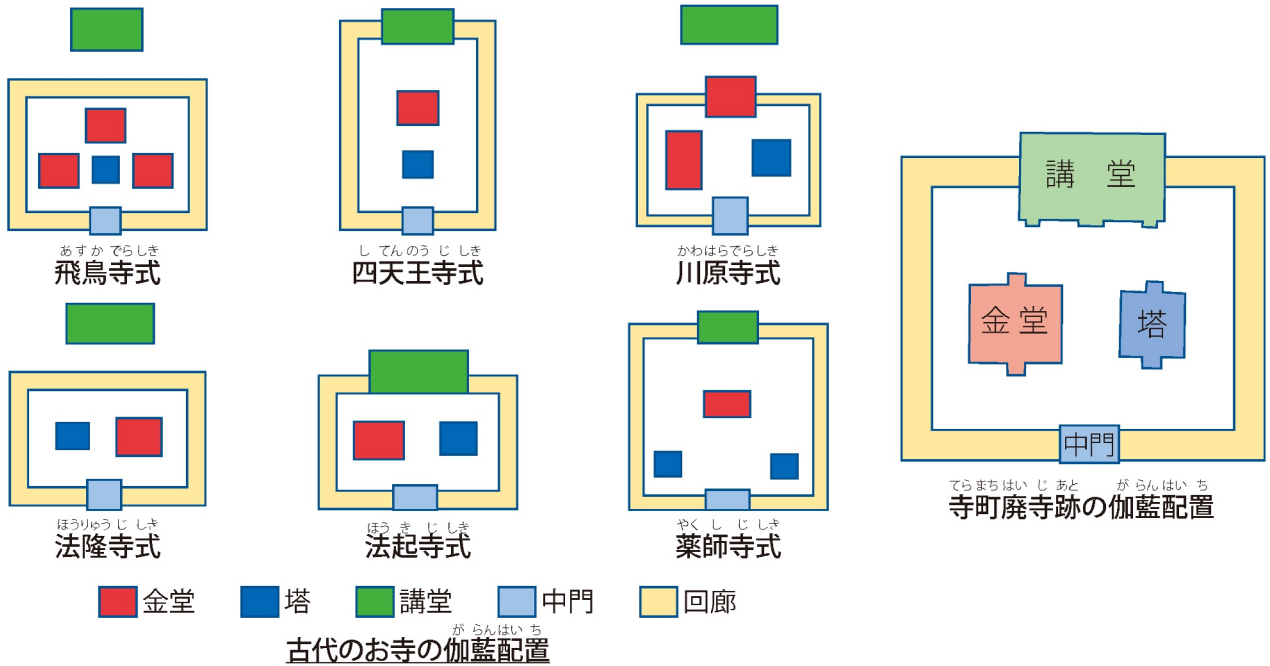
## 国史跡 寺町廃寺跡の特徴

発掘調査の成果から、寺町廃寺跡には次のような特徴があります。

### ① 法起寺式伽藍配置

寺町廃寺跡では、西側に金堂、東側に塔、北側に講堂があり、そのまわりには回廊がみつかっています。

古代のお寺は、それぞれの建物がどこにあるのかによって種類が分かります。寺町廃寺跡の場合は、奈良県にある法起寺と同じ建物配置が採用されています。



### ② めずらしい基壇外装

古代のお寺の発掘調査では、建物の土台となる基壇がみつかります。基壇は土でつくられており、その外側には石や瓦を積みあげたり、はりつけたりします。これを「基壇外装」といいます。

寺町廃寺跡の場合は、塼という、いまでいうと、レンガのようなものが立てならべられています。日本国内ではほとんどみつからない、とてもめずらしい基壇外装です。また、韓国の軍守里廃寺跡ではよく似た基壇外装がみつかり、両地域間の関係が注目されます。



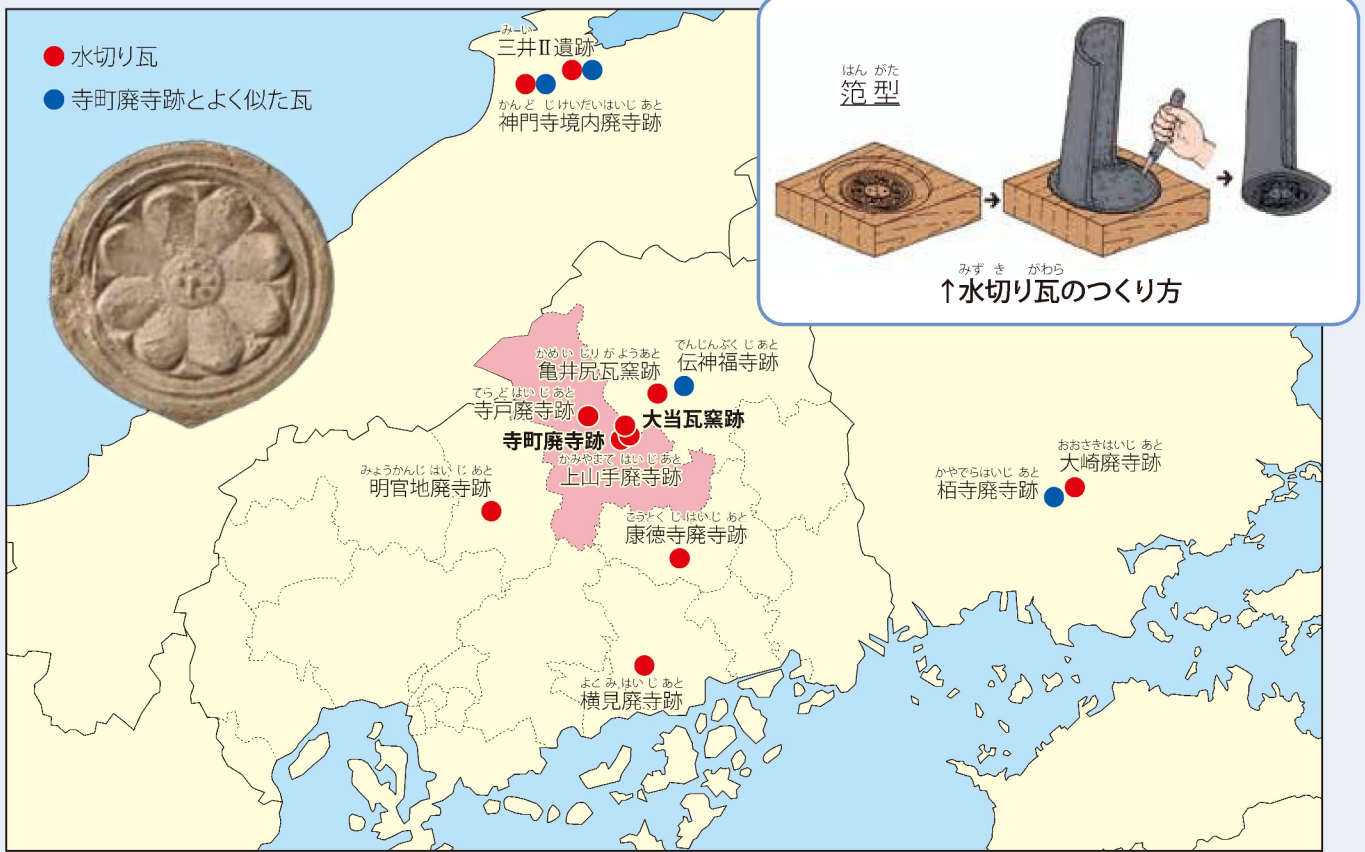
↑ 寺町廃寺跡の基壇外装



↑ 寺町廃寺跡の塼

### ③「水切り瓦」の出土地

「水切り瓦」は、寺町廃寺跡だけでなく、岡山県や島根県などでもみつかっています。軒丸瓦や軒平瓦づくりには、「笵型」という、木の板に蓮の花の文様を彫った道具が使われます。島根県出雲市の三井Ⅱ遺跡でみつかった「水切り瓦」には、寺町廃寺跡で使われていた笵型が使用されています。このことから、寺町廃寺跡の瓦づくり職人が道具をもって移動して、出雲地域の人たちに瓦づくりを教えたとも考えられます。



### ～おわりに【国史跡寺町廃寺跡と「三谷寺」】～

国史跡寺町廃寺跡の特徴からは、古代の三次を中心とした地域間の「つながり」がみられます。これは何を意味するのでしょうか。最後に『日本霊異記』との関係から考えてみます。

まず、「三谷寺」を建てた弘濟は、百濟という国の出身です。寺町廃寺跡でみつかった基壇の特徴などからは、百濟地域との関係がうかがわれます。また、弘濟は仏像の材料を都に買いに出かけて

います。当時の都は、大和地域（現在：奈良盆地の東南地域）にあったとさ

れ、法起寺式伽藍配置をはじめ、寺町廃寺跡の建築手法から

は大和地域との関係が考えられます。このよう

に、寺町廃寺跡の特徴や『日本霊異

記』の内容から、寺町廃寺跡＝「三

谷寺」の可能性は高いと考えられ

ます。

寺町廃寺跡は、本当の寺名と建

てた人物がうかがえる全国的にも

めずらしい地方寺院跡として注目

されます。

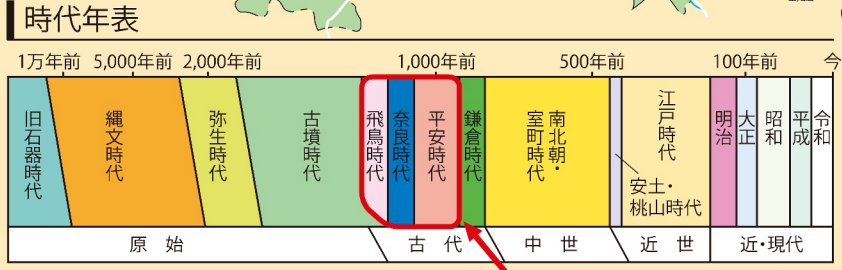




# 国史跡寺町廃寺跡の位置



大当瓦窯跡  
寺町廃寺跡



国史跡寺町廃寺跡の時代

発行年月日 令和6 (2024) 年3月  
 編集・発行 三次市教育委員会 〒728-8501 広島県三次市十日市中二丁目8番1号  
 印刷 三星舎印刷有限会社  
 写真提供 一般社団法人三次観光推進機構 (表紙: 背景)  
 広島県立歴史博物館 (表紙: 寺町廃寺伽藍模型・広島県立歴史民俗資料館発行『令和4年度秋の特別企画展 国史跡寺町廃寺跡とその時代-備北に仏の華ひらく-』図録表紙から転載, 広島県立歴史博物館蔵)